

3

美しい農村の維持・活用

【現状認識】

本県の魅力である豊かな自然や美しい景観は、地域ごとの多様な気候条件や先人の営々とした努力によって築かれたものです。とりわけ、農山村の田園風景やそこに生きる動植物の存在は農業が営まれることによって創造された二次的自然であり、農村に住む人々の日々の暮らしや共同作業によって育まれてきました。

また、水田は洪水防止、地下水のかん養、大気の浄化、ヒートアイランド抑制や地すべり防止などに貢献する機能を有しており、水田が維持されることで安全で豊かな農村が形成されてきました。

しかし、農村では過疎化や高齢化とともに農家個々の農業生産をはじめ、環境保全活動などの地域の共同活動が十分に行えなくなり、遊休農地の増加等によって良好な景観や環境が損なわれている地域があり、今後このような地域が更に増えることが懸念されています。

さらに、野生鳥獣による農作物被害は、農業者の生産意欲の減退を招き、農村地域に深刻な影響を及ぼしています。その対策として1,400kmを越える侵入防止柵の整備を進めるとともに、被害集落自ら対策を実施できるよう誘導し一定の効果は現れているものの、野生鳥獣による農作物被害額は約9億円と依然として高い水準にあり、生息域の拡大も懸念されます。

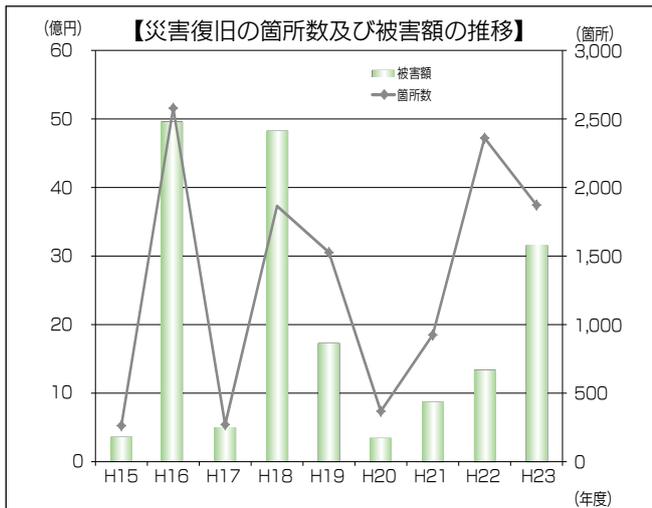
加えて、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北地方を中心として、これまでに経験のない被害をもたらすとともに、本県においても、3月12日に発生した長野県北部の地震により生産施設、農地、農業用水路等が損壊するなど、農業・農村に甚大な被害をもたらしました。また、近年は局地的な豪雨による災害も頻発しており、こうした災害も農家の営農意欲を奪い、農地の減少を招く原因となっています。

一方で、良好な景観や生態系の維持・保全など農村が持つ多面的機能や地球温暖化などの環境問題への関心は高まっています。

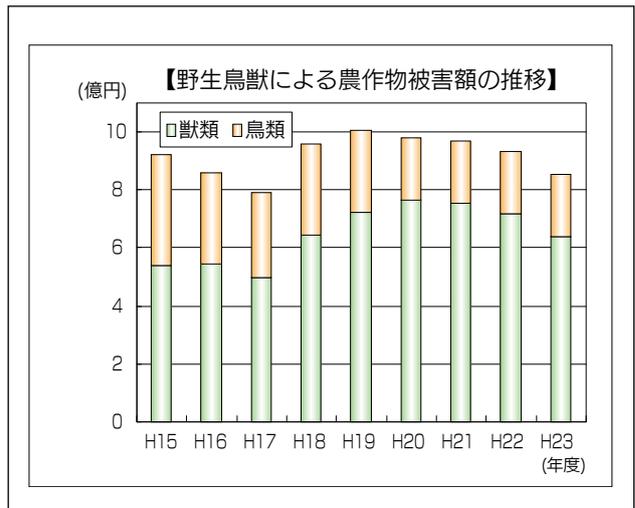
農村では都市住民が参加する棚田保全活動や稀少生物の保護活動が行われ、地球温暖化問題については、温室効果ガス排出量削減の取組が進む中で、平成23年3月の東北地方太平洋沖地震に伴う原発事故を契機として、省エネルギーの推進とともに自然エネルギーを活用した持続可能なエネルギー施策への転換を求める機運が全国的に一層高まっており、水力、太陽光、バイオマスといった資源が豊富に存在する本県の取組に県内外から注目・期待が集まっています。

本県の自然エネルギー利用は、規模の大きい水力発電については古くから開発・導入が進みましたが、その他の小水力や太陽光による発電は導入手続きの煩雑さや導入コストが高いといった課題があるため稼働している施設は少なく、稲わら、きのこと廃培地などの農業系バイオマスは、利用技術が研究段階にあるものや、エネルギー化のコストが高い状況です。

こうした状況は、国が規制緩和を進めていることや、平成24年7月から再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始されたことなど、大きな転換期を迎えています。



出典：県農地整備課調べ



出典：県農業技術課調べ

【今後の方向性】

「美しい信州」を後世に引継ぎ、農業・農村の持つ多面的機能が将来にわたって発揮されるよう、農地や農業用水を守り、野生鳥獣による農作物被害を低減するなどの営農を継続する取組を推進します。これらの取組を農家だけでなく、非農家も含めた地域が一体となって進めることが重要であることから、保全活動に取り組む組織の体制づくりを進めます。

また、本県に豊富に存在する水資源、太陽光や農業系バイオマスなどの自然エネルギーの活用については、事業化の可能性を検討した上で民間事業者等による取組を進めます。

さらに、減災・防災の視点に立ち災害に強い地域をめざすなど、農村に住む人々が安全で快適に暮らし、営農活動が継続できる農村環境づくりを進めます。



【棚田百選に選定された美しい農村景観 青鬼地区（白馬村）】



【地域の石を利用して整備された親水水路】